

第14回全国高等学校情報教育研究会 全国大会(大阪大会)の報告

1. はじめに

8月10日(火)、11日(水)の2日間、第14回全国高等学校情報教育研究会¹⁾全国大会(大阪大会)が、文部科学省や独立行政法人大学入試センター、全国専門学科情報科高等学校長協会をはじめとして、多数の後援と協賛を受けてオンラインで開催された。

本来は実際に会場に集まったの開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、残念ながら4月の段階でオンライン開催に変更された。

本大会には全国の教員等426名の方から申し込みがあり(主催者発表)、盛会となった。

2. 大会概要

【テーマ】新学習指導要領に向けて

～大学入学共通テストを見据えた教科情報とは～

【日時】8月10日(火)10:00～11日(水)15:00

【会場】オンラインによる開催

【主催】全国高等学校情報教育研究会

【共催】大阪府高等学校情報教育研究会

【後援】文部科学省、独立行政法人大学入試センター 他

【大会 URL】<https://www.zenkojoken.jp/14osaka/>

【プログラム】

○8月10日(火)

10:00～ オンライン会場開室

10:30～ 開会行事(開会挨拶、来賓祝辞)
分科会開始まで企業 PR 動画

11:10～ 分科会 3会場で各2件の発表
1件につき発表20分 質疑応答5分

12:05～ 休憩 分科会開始まで企業 PR 動画

13:10～ 分科会 3会場で各4件の発表
1件につき発表20分 質疑応答5分
発表2件終了後に企業 PR 動画

○8月11日(水)

10:30～ オンライン会場開室

基調講演まで企業 PR 動画

11:00～ 基調講演

講演者:水野 修治氏

大学入試センター 試験問題調査官

演題:「大学入学共通テスト 新科目「情報」

～サンプル問題等とそのねらい～」

11:45～ 休憩 特別講演まで企業 PR 動画

13:00～ 特別講演

講演者:鶴飼 佑氏

K-12 Computer Science Education Program
Manager at Google

14:15～ 講評・講演

講評・挨拶:田崎 丈晴氏

国立教育政策研究所 教育課程研究センター
研究開発部 教育課程調査官

講演:鹿野 利春氏

京都精華大学 メディア表現学部 教授

15:00～ 閉会行事

3. 大会の様子

(1) 分科会(オンラインによるリアルタイム発表)

3つのオンライン会場に分かれ、2回の休憩を挟んで各会場で6件ずつ(各25分)合計18件の発表が行われた。プログラミングに関連する発表が6件と最も多く、データサイエンス、情報デザイン、オンライン学習などに関連する発表がそれぞれ3件、その他、問題解決、評価、高大接続に関連する発表があった(複数の内容を含む発表もある)。

(2) 動画による発表(オンデマンド発表)

事前に収録した動画による発表も17件あった。プログラミングに関する発表がこちらでも6件と一番多く、続いて情報デザイン、データサイエンス、情報セキュリティ、AIなどに関連する発表があった。

(3) 企業 PR 動画

全国大会では企業展示から得られる情報も多い。今大会では、それを企業 PR 動画という形で可能にしてくれた。約90秒程度の動画が、現在も12本公開されている。

(4) 基調講演

水野修治氏からの基調講演では、共通テストに新科目として情報の導入が検討されるに至った意味や経緯を振り返り、2021年3月に大学入試センターが公表したサンプル問題のねらいを新しい学習指導要領と照らし合わせながらお話しをされた。

まず、共通テストに情報Ⅰが導入されるに至った経緯について、小学校でのプログラミング教育必修化、中学校の技術・家庭科で扱う内容の高度化、大学等での数理・データサイエンス教育の充実など、様々な資料を示しながらお話しをされた。その中で、情報科の教員採用や研修など、高校の教える側の体制や地域差の課題についても触れられ、今後の全高情研の役割や取組に期待を示された。

その後、情報のサンプル問題について、あくまでサンプルであり具体的なイメージを共有することが目的であること、テストは文系理系を問わず大学教育の基盤になるもので、その資質・能力を測る試験と考えていることなどについてお話しをされた。サンプル問題に含まれるメッセージを読み取っていただき、新しい学習指導要領のもと、来年度から始まる情報Ⅰの授業に生かしていただきたい、とまとめられた。最後に、共通テストのCBT化について、2021年3月に大学入試センターから報告書が出されているのでご覧いただきたいと話されていた。

(5) 講評・講演

田崎丈晴氏からの講評・挨拶は、鹿野氏の後任として4月に着任されたことなどの簡単な自己紹介と大会開催へのお祝いの言葉で始められた。

2日間の大会を振り返り、研究発表や基調講演などからたくさんのヒントや情報を得られた。良いと思ったことはやってみる、改善するということが大事なのではないか。PDCAサイクルで改善を続け、より良い取り組みにしてほしい。とお話しをされた。また、「[指導と評価の一体化]のための学習評価に関する参考資料」が、国立教育政策研究所のWebサイトで2021年8月に公開された件にも触れられ、観点別評価についても確認してほしいとお話しをされた。

鹿野利春氏は、「情報教育のこれまでとこれから」という題で講演された。はじめに教科調査官としてのこれまでを振り返り、感謝の言葉を述べられた。

これからは、変化の予測がつかない時代へと変わっ

ていく。コンピュータは、これからはクリエイティブツール。想像力と創造力が必要な能力になる。問題の発見・設定・解決は、広範な知識、社会的・文化的背景、情報デザイン、プログラミング、データ活用、STEAMなどを捉えてやらなければならない。情報科の中だけでなく、学校全体の科目の総力をあげてやっていくものである。とお話しをされた。

そして、情報Ⅰの大学入試での扱われ方や今後の方向性についても触れられた。高校の情報教育は教員にすることがこれからの課題。情報科の教員採用、研修、資質・能力向上の加速が進み、数学科との連携や総合的な探究の充実、情報Ⅱの採用が年々進んでいくのではないかと。教員研修のコンテンツ充実や遠隔双方向研修の活用も必要。先生方には情報Ⅰの授業の公開をお願いしたい。とお話しをされた。

最後に、生徒の能力を伸ばし教科の内容を豊かにするために、情報関係部活動の活性化、コンクール等の充実について議論を進めている。先生方には、全国の生徒が競い、学び合う場をつくるために力を貸してほしい。とまとめられた。

4. 大会資料について

全国高等学校情報教育研究会のサイトには、大会での数多くの発表等が動画として現在も公開されている。今からでも参加申込をすれば、これらの動画の視聴ができる。是非申込をして視聴してほしい。

【視聴可能な動画】(2021年末までは公開)

- ・動画発表(オンデマンド発表)の視聴*
- ・講演・分科会発表(リアルタイム発表)録画の視聴*
- ・企業PR動画の視聴 (注)※は参加申込が必要

なお、Amazonから予稿集の購入も可能である。大会サイトにリンクがあるので参照してほしい。

5. おわりに

来年度の第15回大会は、現在オンライン開催の予定である。新型コロナウイルスの感染状況等の事態が好転し、対面での開催が可能になった場合には、関東地区開催の可能性もある。難しい状況であるが、決まり次第発信されるとのことである。対面で大会を実施できる日が一日も早く戻ることを期待したい。

参考文献

- 1) 全国高等学校情報教育研究会, <https://www.zenkojoken.jp>